

濃飛横断自動車道(中津川工区)鳥類対策検討会
第6回 議事録(要旨)

日時：平成28年2月2日(火)
場所：各務ヶ原市産業文化センター

参加者一覧

出席者		安藤 辰夫 (一財) 自然学総合研究所技術顧問 大塚 之稔 日本野鳥の会岐阜代表 西條 好迪 (一財) 自然学総合研究所所長
事務局		田中 弘治 恵那土木事務所副所長 八代 貴守 恵那土木事務所道路建設課濃飛横断自動車道建設係長 塚田 晃大 恵那土木事務所道路建設課道路建設係技術主査 伊藤 量崇 恵那土木事務所道路建設課道路建設係技師 五島 功雄 岐阜県道路建設課課長補佐兼改良係長 山内 誠 岐阜県道路建設課企画係主任技師 籠橋 敦志 岐阜県道路建設課改良係技師 他2名 大日本コンサルタント株式会社

濃飛横断自動車道(中津川工区)鳥類対策検討部会 議事録(要旨)

議題	発言者	番号	意見の主旨	当日の回答
1. これまでの検討会の振り返りについて				
	検討会委員一同	1	これまでの検討会の総括内容を再確認し、問題はない。	—
	検討会委員一同	2	第5回検討会以降の新たな情報についても、了解した。	—
2. 現地調査結果(自然環境調査、社会環境調査)について				
	検討会委員	3	社会環境の観点に“人間の生活環境(人家や工場等)との距離”も加えて評価すると良い。調査地点のうち1箇所は、周辺に人家や工場が存在しているため、営巣環境としてはあまり適していないと思われる。	社会環境の観点に、人間の生活環境との距離を加え、評価結果を再検討する
	検討会委員	4	評価結果(○、△、×)の基準を明記した方が良い。評価基準は自然環境調査及び社会環境調査の結果を踏まえて人間が判断するため、ある程度定性的な表現になっても仕方がないと思われる。	評価結果の基準を明記する。
	検討会委員	5	岩屋堂のH26営巣木は、巣への出入りのしやすさなど自然環境の観点では適しているが、近傍の林道から見通すことができるため、最適な環境とはいえないと思われる。H26営巣木周辺の樹林にはオオタカが営巣可能な環境は存在するものの、全体として少なくなりつつある中で、今の古巣の位置を選んだと思われる。	いただいたご意見を参考に、検討する。
3. 今後の予定について				
	事務局		今後工事着手3年前までは、引き続きオオタカの繁殖状況について調査を行い、各委員へ報告する。工事着手3年前からは、オオタカの繁殖状況調査とともに行動圏調査も実施していく。また新たな事案が発生した場合には、必要に応じて適宜検討会を設ける。	各委員より了承を得た。
	検討会委員	6	3月の猛禽類調査はいつ頃実施予定なのか。3月の少し遅い時期に調査が実施できると、繁殖に関わる行動がより確認されやすくなると思われる。	いただいたご意見を参考に、昨年実施した現地調査の結果も踏まえ、調査日程を検討する。
	検討会委員	7	千且林南地区のオオタカの繁殖状況については他の近隣開発事業者でも引き続き調査を実施していくため、情報を共有しあうと良い。	引き続き情報共有するよう事業者と調整する。現地調査の実施については検討する。